



二ツ塚処分場の緑地を豊かな森にするため、ポット苗の育成に取り組んでいます

循環組合では、二ツ塚処分場の自然環境を保全するための事業に力を入れています。

処分場内は約4割を緑地として残っていますが、スギやヒノキの林から広葉樹が茂る多種混合林への転換を図るため、地元産のドングリなどの種子を散布するとともに、ポットで育てた苗の補植などの植林を継続的に実施しています。

この事業を促進するため、平成19年度から青梅市立第六小学校の協力のもと、ポット苗の育成に取り組んでいます。冬に林内へ補植するため、現在、苗として使用するドングリの選別などが行われています。



青梅市立第六小学校にて

日の出だより

日の出町 No.37

多摩地域 東京都 区部

第18回 桜まつりを開催

日の出町を流れる平井川(塩田耕地)の堤防沿いで、第18回桜まつりを開催します。まつり期間中は約150本のソメイヨシノに飾り付けられた提灯が夜9時まで灯り、美しい桜の花が楽しめます。4月5日(土)はステージイベントとフリーマーケットを開催予定。野点サービスや出店販売、大正琴や流し踊り等で、春の一日をお楽しみください。



- 開催期間/平成20年4月1日(火)～4月13日(日)
- 実施場所/日の出町町民グラウンド(塩田耕地堤防)
- イベント/4月5日(土)10時～15時30分
雨天の場合は翌日に順延



桜まつりは4月5日(土)にイベントを実施

第12回 竹の子まつりを開催

ひので肝要の里において、第12回竹の子まつりを開催します。朝どり竹の子の販売、親子竹細工教室や焼き竹の子、竹の子汁などがお楽しみいただけます。家族お揃いで春のひと時を過ごしてみませんか?



【桜まつり・竹の子まつりに関する問い合わせ先】日の出町後援 経済課 商工観光係 TEL.042-597-0511(内線:241)

また、4月下旬から町内では「竹の子狩り」が体験できます。道具完備で掘り方も丁寧に指導。自分で掘った竹の子は、1kgあたり400円でお持ち帰りが可能です。旬の味を、ぜひお土産に!

※要予約。詳細はお問い合わせを。

- 開催日/平成20年5月3日(土)11時～16時
- 実施場所/ひので肝要の里

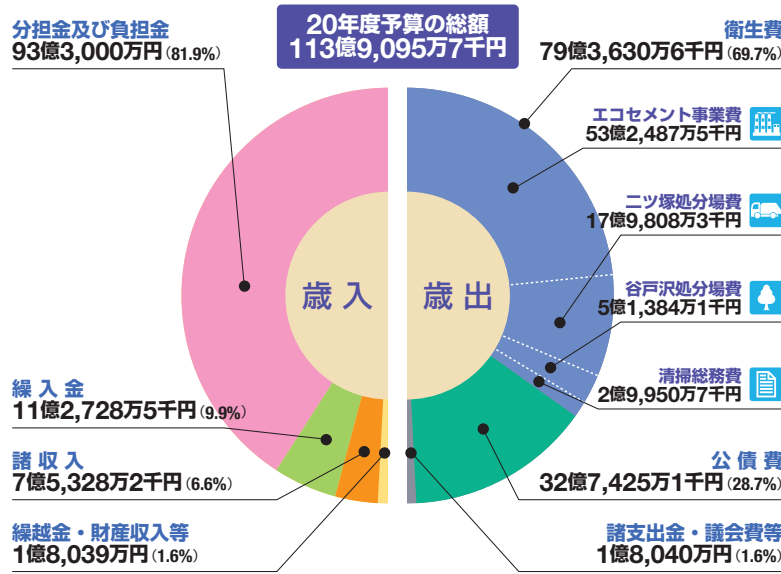
Information

循環組合の動き

- 1月30日(水) 平成20年第1回正副管理者会議
- 2月7日(木) 平成20年第1回事務連絡協議会
- 2月14日(木) 平成20年第1回理事会
- 2月22日(金) 平成20年第1回議会定例会
- 3月21日(金) 第3自治会谷戸沢処分場監視委員会
- 3月25日(火) 第22自治会二ツ塚処分場対策委員会

平成20年度予算の報告

平成20年度の予算は、113億9,095万7千円で、前年に比べ9億1,344万円の増額(前年度比8.7%の増)となりました。これは、エコセメント化施設建設に伴う元金の償還が本格的に始まることによる公債費増加などによるものです。



エコセメント事業のPR活動を行いました

循環組合では、エコセメント事業をもっと地域住民のみなさんに知っていただくために、3月上旬、多摩地域の駅にポスターを掲出するなどのPR活動を行いました。今後も、処分場見学会や各市町のイベントにブース出展する際に、リーフレットを配布するなどして、PR活動をしていきます。



PR用リーフレット



多摩400万人のごみ情報紙

たまエコニュース

3月号 MAR. 6月号 JUN. 9月号 SEP. 12月号 DEC.

VOL. 45 MAR. 2008

年4回・最終日曜日発行

※掲載内容と時期により、発行日が前後する場合があります。

発行:東京たま広域資源循環組合

【事務局】〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内
TEL:042-385-5947 FAX:042-384-8449

循環組合組織団体

八王子市 立川市 武蔵野市 三鷹市 青梅市 府中市 昭島市 調布市 町田市 小金井市 小平市 日野市 東村山市 国分寺市 国立市 福生市 狛江市 東大和市 清瀬市 東久留米市 武蔵村山市 多摩市 稲城市 羽村市 西東京市 瑞穂町

循環組合は組織団体からの負担金で運営されています

「循環組合」とは

二ツ塚処分場・谷戸沢処分場(日の出町)を管理・運営している特別地方公共団体で、日の出町のみならずの協力を得ながら、多摩地域25市1町の約400万人の可燃ごみの焼却灰をエコセメントとしてリサイクルし、資源として活用。また、不燃ごみの埋立をしています。みなさまと共にごみ問題の解決に取り組んでいます。

環境マネジメントシステム「ISO14001」を更新! 今後も処分場の適正な管理運営に努めます

多摩地域400万人の生活を支えるごみの埋立とエコセメント事業

循環組合では、日の出町の住民のみなさんのご協力のもと、多摩地域25市1町のごみの埋立事業等に取り組んでいます。

谷戸沢処分場は、昭和59年から平成10年までの14年間にわたってごみが埋立立てられ、終了した現在も、自然回復を目的とした維持管理を続けています。

二ツ塚処分場は、平成10年1月から、可燃ごみ焼却灰と不燃ごみの埋立を行ってきました。平成18年7月に「東京たまエコセメント化施設」が本格稼働したことにより、可燃ごみ焼却灰はエコセメントの主原料として活用されています。そのため、現在埋立処理しているのは不燃ごみのみとなっています。

※ISO14001……組織活動が環境に及ぼす影響を最小限に抑止することを目的とした、環境マネジメントシステムの国際規格。

ISO14001の更新により一層の環境保全を進めます

循環組合では平成17年1月に、国際的な環境マネジメントシステムの標準規格である「ISO14001」の認証を取得しました。

ISO14001では3年ごとに認証の更新審査が実施されますが、循環組合は平成20年1月に更新が認証されました。更新に際しては、その対象範囲を二ツ塚・谷戸沢両処分場に加え、エコセメント化施設の管理運営まで拡大しています。

循環組合では従来から、環境の保護を重視した処分場の管理運営を進めてきました。ISO14001の更新により、こうした取り組みの有効性、有用性を再認識し、今後も安全管理と環境保全に配慮した処分場、およびエコセメント化施設の運営に努めていきます。



二ツ塚処分場と東京たまエコセメント化施設

ISO14001の登録証



埋立が終了した谷戸沢処分場

約13万6,000トンものごみ焼却灰がエコセメントにリサイクルされました

多摩地域25市1町の可燃ごみ焼却灰と不燃ごみを埋立立てる二ツ塚処分場(日の出町)は、平成10年1月から搬入が始まり、平成20年1月までに約43.8%の埋立が終了しています。

処分場に埋立立てられていたごみのうち、約8割が焼却灰でしたが、これを資源として再利用する「エコセメント事業」により、「東京たまエコセメント化施設」が本格稼働した平成18年7月から平成20年1月まで約13万6,000トンもの焼却灰全量を、埋立立せずにリサイクルしています。

現在は、埋立は不燃ごみのみとなっており、貴重な処分場の使用期間を大幅に延ばすことができます。

現在は、埋立は不燃ごみのみとなっており、貴重な処分場の使用期間を大幅に延ばすことができます。



10トントラック、約1万3,600台分!

二ツ塚処分場と東京たまエコセメント化施設

ホームページをご覧ください

<http://www.tama-junkankumiai.com>

循環組合では、処分場の敷地内や周辺の土壌、水質など環境調査の結果をホームページで公表しています。ぜひアクセスしてみてください。

発行・問い合わせ先
TEL:042-385-5947 FAX:042-384-8449

「たまエコニュース」の内容やごみ処理に関するお考えなど、みなさまのご意見を、お手紙、FAX、電子メールでお聞かせください。
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内 東京たま広域資源循環組合「たまエコニュース」係
[メールアドレス] sjkumiai@tama-junkankumiai.com

この印刷物は環境にやさしい再生紙、大豆インキを使用しています。

徹底した安全対策のもとで エコセメントは製造されています

リサイクルの新しい形として全国から注目を集めている「エコセメント」。循環組合では安全の確保や環境の保護に十分な留意をして、エコセメント事業に取り組んでいます。



エコセメントの製造工程における環境配慮と安全性

焼却灰の受け入れは建物内で実施。 鉄・アルミニウム類は再資源化します

エコセメントの主原料となる可燃ごみの焼却灰は、トラックでエコセメント化施設内の受入ピットまで運ばれます。

焼却灰の受け入れは密閉された建物内で行い、粉じんの飛散を防止します。

また、受入ピット内の空気も吸引して集じん脱臭の処理を施すため、施設外に

悪臭などが漏れることはありません。

焼却灰は、灰の中に混ざっている鉄やアルミニウム類を選別、回収した後、副資材として石灰石と鉄原料を調合してエコセメントの原料となります。

回収された鉄・アルミニウム類は資源としてリサイクルしています。

1,350℃以上の高温で焼成し、 ダイオキシン類を無害化します

調合したエコセメントの原料は円筒形の焼成炉（ロータリーキルン）で焼成され、セメントの中間製品（クリンカ）がつけられます。焼成温度は1,350℃以上に達するため、焼却灰に含まれるダイオキシン類は分解、無害化されます。焼成の際に発生する排ガスは、排ガス処理棟で急速に

冷却することで、ダイオキシン類の再合成を防止しています。

前処理や焼成の工程で発生する排ガスは、集じん機（バグフィルタ）を通してばいじんを取り除き、脱硝設備できれいな状態にして煙突から排出されます。ば

いじんに含まれる重金属類は回収設備で処理、回収し、再資源化しています。

このように、エコセメント化施設は、製造工程での安全性はもちろんのこと、徹底した物質の再利用化を図るシステムです。

エコセメント Q&A

Q エコセメント製品は安全なの？
A 日本工業規格（JIS規格）に規定された土木建築資材です

エコセメントは、開発段階からその製品が酸性雨などの影響で溶け出すことがないか、廃棄物学会などで幾たびも溶出試験が実施されました。また、ニッ塚処分場に設置した「東京たまエコセメントコンクリートブロック」でも定期的に溶出試験を行っており、その材質も十分認められています。

Q どんどこで使われるの？
A 私たちの街で広く活躍しています

エコセメントは普通セメントと同等の性質を持つことがJIS規格で規定されており、普通セメントと同じように幅広い用途で使用できます。現在、施設で生産された「東京たまエコセメント」は、道路の舗装材や縁石、側溝といったコンクリートの二次製品などへの加工が行われており、こうしたエコセメント製品は多摩地域の公共事業などで利用されています。

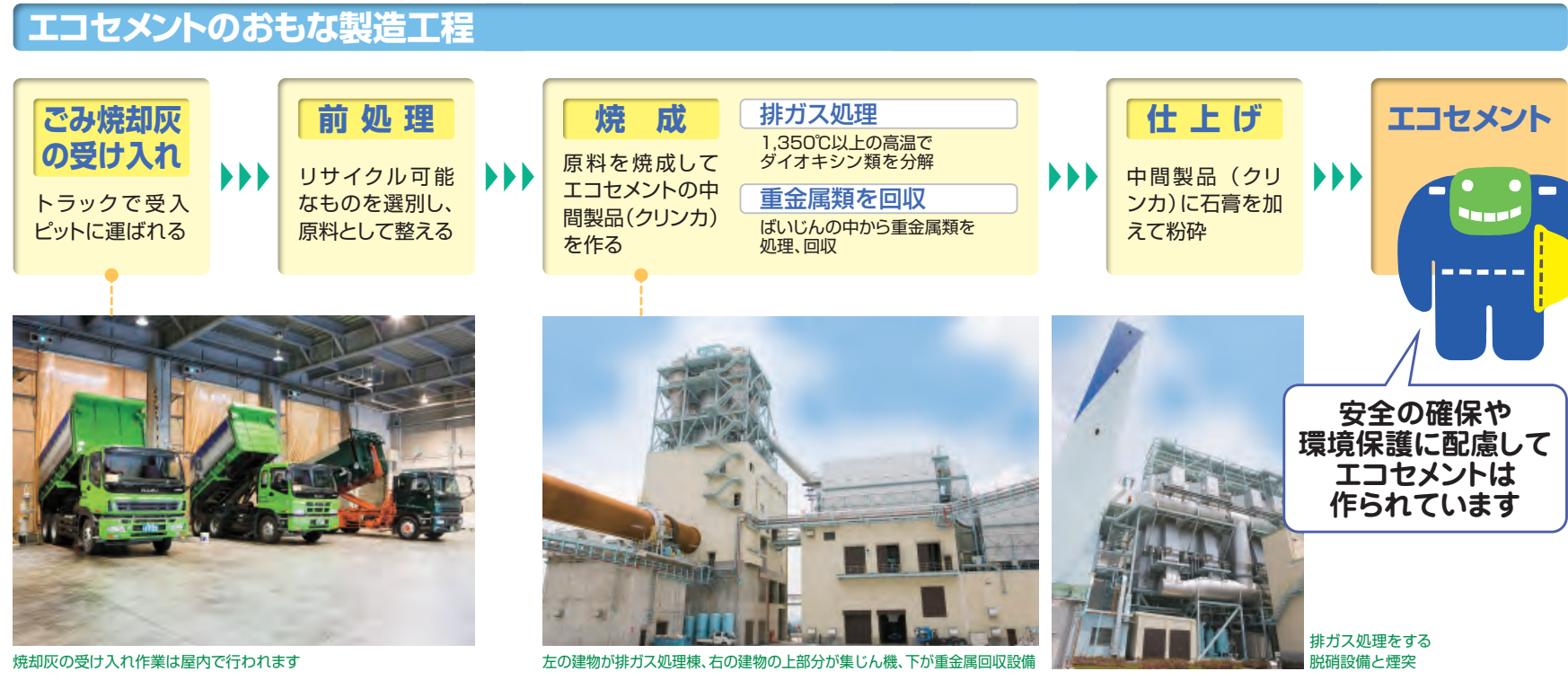
Q それでもごみ減量は必要なの？
A 不燃ごみの埋立は続いています

可燃ごみの焼却灰は「東京たまエコセメント」にリサイクルされますが、不燃ごみの埋立はいまま続いているため、ニッ塚処分場はいつか満杯になってしまいます。限られた処分場を有効に利用していくためには、一人ひとりがより一層のごみ減量、リサイクルに取り組むことが不可欠です。

Q どんなところで使われるの？
A 私たちの街で広く活躍しています

施工前 施工後

▶武蔵野市では吉祥寺駅周辺道路（中道通り）で約500mにわたってエコセメント製品（インターロッキングブロック）を使用しています。今後、駅の東側の道路（末広通り）でも使用する予定です。



「東京たまエコセメント化施設」管理棟が 優良防火対象物認定証（優マーク）を取得

認定証交付式で秋川消防署長から通知書および認定証を受け取りました

優良防火対象物認定証（優マーク）

東京都火災予防条例の改正に伴い、平成18年10月から「優良防火対象物認定表示制度」が施行されています。多くの見学者を受け入れるエコセメント化施設管理棟は、万全な防火安全体制が整備されているとして、平成20年2月に同制度の認定を受け、「優良防火対象物認定証（優マーク）」が交付されました。秋川消防署によると、防火対象物の用途が工場で認定されることは数少ない、とのことでした。認定証は「東京たまエコセメント化施設」管理棟内に掲示するほか、ホームページにも掲載します。

ごみ減量レポート

「レジ袋削減の巻」

ごみ減量と環境保全推進の対策として、全国的に注目されているレジ袋削減の動き。多摩地域ではどのような取り組みが行われているのでしょうか？今回は行政が市民に直接はたらきかけている事例と、市民の具体的な取り組みを紹介します。

マイバッグの全戸配布を通して、ごみ減量を訴える

八王子市

八王子市では昨年11月から、清掃事業所職員が各戸を訪問し、マイバッグを直接手渡ししながらごみ減量を呼びかける活動を実施しています。同市は平成16年10月からごみの有料化制度を導入。3年が経過した昨年、さらなるごみ減量をめざして同活動を展開、約24万世帯全戸を2年間かけて訪問し、マイバッグを配布しながらごみ減量をお願いする計画です。

「可燃ごみの中に資源化できる紙類が入っているなど、分別を意識することでさらなるごみ減量が可能です。そうしたことを直接伝えて、市民のみなさんにごみ減量に関心を持っていただくのが大きな目的。マイバッグは、不要なレジ

袋はもらわない、ごみにするのはもったいない、と考えるためのひとつの象徴といえます」と同市環境部ごみ減量対策課。実施にあたってはマイバッグモニターの意見を参考にしながら、検討を重ねました。現在、市民からは「買い物の時に意識するようになった」という声も寄せられています。

また、同市では平成17年12月にエコショップ認定制度をスタート。レジ袋削減や簡易包装の実施など、ごみの発生を抑制する取り組みを積極的に行う店舗を「エコショップ」に認定し、広報紙等で活動を紹介しています。各家庭への直接的な呼びかけ、店頭での啓発など、多方面からのごみ削減を展開しています。

買い物でレジ袋をもらわないために どんなことをしていますか？

日野市在住主婦の場合

買い物の際、何気なくレジ袋を受け取っていませんか？不要なレジ袋はできるだけ受け取らないこと、それがごみ削減の第一歩です。マイバッグ活用の工夫を、日野市在住の主婦の方に聞きました。

「マイバッグは、買った時ももらっていつでも持っているの、重い物を買う日は厚手で丈夫なバッグなど、買い物の内容に応じて選んでいます。日常の買い物では、大きなマイバッグの中に小さなマイバッグを入れておき、買った物の量によって都合のいいサイズを使い分けています。小さくたたんだレジ袋を入れておいて、再利用するのもいいですね。

車にはいつもマイバッグを入れてあります。取りやすいように目につく場所において、不意の買い物に備えています。マイバッグを持ち歩くようになって、どうしても必要な時以外にはレジ袋を受け取らなくなりました。コンパクトなものを1つバッグに入れておけば、買い物だけでなく出先で荷物が増えた時にも役立ちますよ」

みんなでごみを減らそう あなたのアイデア募集!!

ごみ減量や資源の活用について、アイデアや体験談をお寄せください。家庭や地域、学校や職場などでの取り組みや、実際にごみ減量に成功した事例を、「たまエコニュース」で掲載予定です。採用された方には記念品を差し上げます。お気軽にご応募ください。

【送り先】〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内
 東京たま広域資源循環組合「たまエコニュース」係
 TEL:042-385-5947 FAX:042-384-8449
 [メールアドレス] sjkumiai@tama-junkankumiai.com

*ご応募の際は、活動の内容、あなた(グループの場合は代表者)の氏名、住所、年齢、職業、電話番号をご記入ください。取材させていただく場合があります。